

右翼労働戦線「統一」問題を考える



この帝国主義労働運動=産業報 国会化への攻撃を いかに粉碎するか

日刊 労働者千葉

81.11.13
No. 894

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(電話)七二二〇七

鉄労やオニ組合に、戦術的労働運動を売り渡してはならない

「労戦」統一問題の最後にはわれわれは、いかにこの攻撃を粉碎するのかわりにて明らかにします。

戦後労働運動のとりわけ総評労働運動の歴史は、常に、資本と支配階級との側に立った「オニ組合」との激しい闘いの歴史でもありました。

国鉄における「鉄労」、郵政における「全郵政」、民間における日産労組、自動車連、造船重機労連などの「オニ組合」の側からの、会社、転制と一体となった日常的な暴力的集団テロ、リンチ、公然たるスト破り、権力へのデッチ上げ告訴、告発、さらに金と通食による買収、組織切り崩し、など様々な戦術的労働運動破壊・解体攻撃に反対して、全人的性をかけた激しい闘いの歴史であったのです。

まさに、鉄労や全郵政、さらに日産労組をはじめ同盟傘下の「オニ組合」は、まじうことなく、資本や当局の代弁者であり、裏切り者であり、敵であることははっきりしています。

今日進められている労働「統一」攻撃は、昨日まで組織をあげて対決してきた相手である「オニ組合」鉄労と、今日からは手を組めということなのです。いや、むしろ、鉄労に屈服せよという攻撃なのです。考えこも見よ、「日米安保体制の堅持」「防衛力の増強」「兵器生産」を公然と叫び、「生産性向上、合理化に全面協力」する同盟「オニ」や、即ち労働者、労働者を当局や権力にデッチ上げ告訴、売り渡しをくりかえす同盟「オニ」などと、一体全体、統一して労働者の利益を守れるというのだろうか、労働「統一」の攻撃は、まさに、今日の総評労働運動を解体し、労働者階級総体を支配階級の軍事大国化、改憲、侵略戦争と反動政策の尖兵にしてしまうという攻撃なのです。

三里塚二期着工阻止、82年3月「三里塚・反合」春闘の爆発で勝利の突破口を開く

この攻撃が、明らかに日帝支配階級の戦争と反動攻撃の一環であることを見据えるならば、われわれは、これにいかに対決し、勝利していくのかはおのずと明らかである。それは、まずオニ、日帝支配者階級の軍事大国化、侵略総動員体制づくりの基軸をなす攻撃に反対し、オニでうち勝つことである。

それは、反戦闘争・反権力闘争の若し三里塚闘争、国家権力の横暴、暴力に抗し、非妥協不屈に闘う、全人民共闘の若し三里塚を基軸として、勝つことでもあります。

日帝・国家権力の総力をあげた攻撃のまえに立ち上がり、16年間にわたって不撓不屈の武力闘争をもって闘いぬいている三里塚・芝山農民は、身をこめて、二期着工阻止の闘いに立ち上っています。

この二期決戦への労働者階級本隊の総決起こそ、軍事大国化・戦争への道を阻止し、右翼労働「統一」攻撃を粉碎する道であります。

そして、この闘いは、すでにわが労働者千葉のジェット決戦ストを突破口として、10月11日三里塚闘争の爆発へと引き継がれ、着実に前進しています。

われわれは、三里塚二期着工阻止をはっきりとかけ、「三里塚・反合」春闘として、オニの「813」実現めざす、82年3月決戦へむけて、全国の闘う労働者と女に総決起しようではありませんか。

右翼労働戦「統一」の尖兵「本部」反動分子掃

更に、右翼労働戦「統一」攻撃を粉碎する闘いのオニは、右翼労働戦「統一」を推進する総評指導部の最良の擁護者であり、国鉄35万人体制に率先協力し、当局権力一体の警察労働運動を唯一の路線とする腐敗分子になり下った労働「本部」革マル反動分子を労働者から、そして、国鉄労働運動から一刻も早く追放・掃蕩し、労働大改革をかちとることであります。

123労働者集会に結集し、共に闘おう

わが労働者千葉は、この二つの闘いにおいて、すでに、数々の経験と様々な教訓を自らのものとして、勝利の確信と展望を築きつつあります。

労働「統一」攻撃と闘いんとする全ての仲間、労働者、右翼労働戦「統一」粉砕、三里塚二期着工阻止、123労働者集会(主催)労働者千葉を圧倒的に成功させ、共に闘いぬいていこうではありませんか。オニにこそ、唯一の、そして、確実な勝利の道があることを心から訴えて、今号をもつて、この「シリーズ」を一応、終りにしたいと思います。

123 労働戦「統一」粉砕・労働者集会

主催：労働者千葉 ●場所：東京・牛込公会堂
●基調報告：中野書記長 ●日時：11月3日(日)15時半